



第 318 号

発行 2010年7月15日

佐賀市緑小路1-3

社会福祉法人

めぐみ厚生センター

めぐみ園 0952(34)7722

富士学園 0952(63)0107

ウイズ富士 0952(51)0063

発行者 栗林恵一  
事務局 0952(25)2797  
印刷所 (株)古川総合印刷

この四月からセンターだよりの編集委員長の大役を仰せつかつたわけだが、いきなりやつてしまつた。締切直前までセンターだよりの顔ともいうべき、論苑の執筆依頼を忘れたままにしていたのだ。外部の有識者にお願いする時間的余裕もなく、もはやこれまで、自分でどうにかこの格調高きスペースを埋めねば…。しかし、何を書こうか、なかなかこの貧困な頭では思いつかない。そこで第一号のセンターだよりにヒントを求めようではないか。

第一号の論苑はやつぱり創設者の栗林ミサ先生。先生の偉大さを知る身と

【原点に感謝】

このところ度々『記事にもつと喜怒哀楽を』『書き手の個性を出そう』『多くのアイデアと新企画を』などと編集委員にかけしかけている。それも、『一読しただけでゴミにされないものにしよう、できれば、次の号の発行を楽しみにしてもらえるセンターだよりをを目指そう』という極めて謙虚な目標を立てているせいなのだ。

具体的には、レイアウトの工夫、何だよ?と思わせるようなタイトル、恒例行事の紹介に終始しない面白いシリーズ企画などを推進しようと思っている。時には読者の皆さんにお叱りを受ける

瞬間、題字の上の日付に視線が釘付けに。『一九八十年七月十五日発行』なんと今号が三十周年記念ではないか。こんな節目に編集委員長が当たつたのも運命、開き直つて素直にセンターだよりについて今思ふことを書くしかない、それでお許し下さいミサ先生。

しては、この論苑への重圧が増し、つい目をそらす。瞬間、題字の上の日付に視線が釘付けに。『一九八十年七月十五日発行』なんと今号が三十周年記念ではないか。瞬間、題字の上の日付に視線が釘付けに。『一九八十年七月十五日発行』なんと今号が三十周年記念ではないか。瞬間、題字の上の日付に視線が釘付けに。『一九八十年七月十五日発行』なんと今号が三十周年記念ではないか。



## 「いきなりの大失態」

センターだより編集委員長  
富士学園 田中康平



ようでも良いじゃないか: それくらいの意気込みで冒険もしないと印象に残るものはないぞという発想からだ。(従来の格調高い論苑の雰囲気を壊し気味なのもこの試みです、すみません) 読み返すと三十年前の第一号の編集後記にも『皆さんから待ち望まれるよりとなるように』『今後は少しずつユニークさが出せるよう工夫していく』『連載読物なども取り入れて内容を充実させたい』と書かれていた。(大先輩も目指すところは一緒だったんだ!)

### 【読者の皆様へのお願いを兼ねて編集委員へ重圧をかけてみる】

さて、三十年前の大先輩の目標をこれまでの、というより最近のセンターだよりは達成できていたでしょうか。編集委員といえども日々多忙なメインの業務のかたわらに携わっているため近頃のセンターだよりは前例の踏襲に流されているよう見えないでしょうか。また最近では、個人情報保護、不適切用語の使用禁止などに過剰に配慮した結果、生き生きとした利用者・職員の様子が伝わりにくくなっているのではないかと危惧しています。

これからは前段に掲げたような目標と意識をもって編集に当たっていく所存ですので、お手元に届いた際にはこれまで以上にじっくりと読んでいただけたらと思います。



♪よげたいやきくん♪

歌に踊りに皆さん喜んで参加!!

### 『水琴の会』唱歌の集い

五月二十四日、水琴の会の皆さんが来園され、懐かしい歌やピアノ演奏を聴かせていただきました。

一曲目、『くつがなる』に始まり、『わかば』、『みかんの花咲く丘』、『手の平を太陽に』、『ほたる』、『めだかの学校』などなど十数曲を楽しく聴き又一緒に歌う事も出来本当に有難うございました。

めぐみ園



皆様からの温かい声援を受けながら、わきあいあいの雰囲気に包まれ、午前中はゲームに午後からは昼食の弁当を囲んでみんな大満足!!

六月十一日、心地よい天候の下、プレーデーが開催されました。

今年は、ボランティアの方とデイサー

ビスの利用者の方、富士学園の数名の利用者の方、そしてめぐみ園利用者、保護者、職員との交流で、八種目のレクリエーションを清々しい汗を流し、笑顔に溢れた楽しい時間を過ごせました。

プレーデー



### 花の日訪問



狙いをさだめて!

五月十六日、佐賀県障害者スポーツ大会のボウリング部門に三名の利用者の方が参加されました。

入賞することはできませんでしたが、

ストライクを出し、ガッツボーツをして喜ばれ

ました。また、他の施設の方々とも交流ができ、楽し

い一時を過ごしました。

六月十三日から十六日にかけて、花の日訪問を行いました。

日頃お世話になつてゐるみなさんに感謝の気持ちを込めて、花と園で採れた野菜を渡しました。

今後もよろしくお願ひします。

佐賀県障害者スポーツ大会



きれいになってるね!!

『園内オブズマン』の際に、女性利用者の方の「お化粧がしたい。」と いう一言がきっかけで、今回のメイク教室が開催されました。

六月十七日、ミズ溝上薬局の美容部員（六名）の方がボランティアで訪問され、セラピーメイクをして頂きました。少し緊張している利用者の方もいましたが、口紅まで塗つてもらい鏡を覗き込む利用者の顔は自然と笑顔になつていました。

メイク後は、赤やピンクなど色とりどりのマニキュアの中から好きな色を選び丁寧に爪を彩つてもらうと、利用者の方は更に笑顔でいっぱいでした。

利用者一人ひとりの笑顔を見ていると、やはり女性は幾つになつても「美しいありたい」と思うものなのだと実感しました。

メイクボランティア



五月十六日（日）佐賀県総合運動場にて第九回障害者スポーツ大会が行われました。

富士学園からは七名、ウイズ富士からは八名の利用者がフライングディスク大会に参加され、暖かい日差しの中、白熱した競技が繰り広げられていました。

また、ウイズ富士から十二名の利用者が遊道楽（あそびどうらく）嘉瀬店にてボウリング大会に参加されました。



## 富士学園

### 障害者スポーツ大会



日中活動でクレヨンの色分けをしていたときのことです。クレヨンを机に並べて「これは何色ですか？」と利用者の方に尋ねると元気な声で「赤」「青」と答えが返ってきます。

赤、青、黄…と並べ終えて、オレンジ色のクレヨンを置いたときです。皆さん「オレンジ」ではなく「だいだい色ね」とAさんが答えました。Bさん、Cさんと尋ねてみますが、皆さんは「オレンジ」ではなく「だいだい」と答えられます。

「なんでみなさんはオレンジじゃなくて、だいだいって言うんだろう？」不思議だなあ、と首をひねる私に、横におられたDさんがびしやり、と一言。「オレンジとかは都会ぶつともんが言うつたい。だいだいでよかと」あれまあ、これは一本取られました。

他の方々も、そんなやりとりを見て笑いの輪が広がります。



いつも以上に笑顔が溢れています

## 「だいだい」と「オレンジ」 ～ありのままに生きること～

### 若返りの秘策

六月十九日（土）ピースハイム金立Ⅱの利用者七名で午前中から外出。川上嶽温泉『龍登園』へ行きました。食事と温泉はもちろんですが、今回のメイソは剣戟（けんげき）はる駒座津川と普段はお目にかけない？超男前の役者さんに一同ドキドキそして、うつとり……。

皆、いくらか若返つての御帰宅と相成りました。

五月二十  
九日（土）利用者二十  
一名と職員二  
名で福岡ドーカ  
ムに出掛けゆ  
みました。



## ウイズ富士

### ウイズ・イン・ザ・ドーム



スタジアムは超満員！



五月二十  
九日（土）利  
用者二十  
一名と職員二  
名で福岡ドーカ  
ムに出掛けゆ  
みました。

り、福岡ソフトバンクホークス中日ドラゴンズのセ・パ交流戦を観戦。フラッグ片手に応援されたり、ビールを味わいながらの観戦など短い時間でしたが楽しんで来ることが出来ました。帰りの車中は野球の話で盛り上がりに感謝すると同時に、日々を頑張る元気がわいてくるのです。

ました。

